

厚生労働科学研究費補助金
効果的医療技術の確立推進臨床研究事業

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療
に関する大規模臨床研究

平成14年度 総括・分担研究報告書

平成15（2003）年4月

主任研究者 河野雄平
(国立循環器病センター)

目 次

I. 総括研究報告

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

国立循環器病センター 内科部長 河野 雄平 1

資料 HOSP 研究：実施計画書 5

II. 分担研究報告

1. 家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

の情報管理と倫理に関する研究

国立循環器病センター 病院長 友池 仁暢 29

2. 家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

国立循環器病センター 集団検診部 万波 俊文 31

3. 循環器領域における生活習慣病に対する質の高い大規模臨床試験

実施体制の確立

国立循環器病センター 治験管理室長 佐瀬 一洋 36

4. Ca拮抗薬の種類による腎保護作用の差異に関する研究

国立東静岡病院 副院長 小嶋 俊一 39

5. 外来血圧および高感度CRP血中濃度による動脈硬化進展予測に関する研究

国立大阪病院 診療部長 恵谷 秀紀 41

6. 家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

国立岩国病院 病院長 斎藤 大治 42

7. 家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

国立病院九州医療センター 内科医長 上野 道雄 44

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 45

IV. 研究成果の刊行物・別刷 49

I . 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（効果的医療技術の確立推進臨床研究研究事業）
総括研究報告書

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究

主任研究者 河野 雄平 国立循環器病センター内科部長

本研究は、国立循環器病センターと国立病院・国立療養所による臨床研究を推進する組織作りを行い、朝の家庭収縮期血圧に基づいた降圧薬の無作為割り付けによる高血圧の大規模臨床研究を施行し、わが国における降圧治療指針の資料となる成績を得ることを目的とする。本年度の研究成果として、1) 研究計画を確立した。朝の家庭収縮期血圧に基づいた高血圧治療の多施設共同無作為介入試験（HOSP研究）で、2段階の降圧レベル（130mmHg未満と140mmHg未満）と2種類の降圧薬（Ca拮抗薬アムロジピンとAⅡ拮抗薬ロサルタン）の効果を検討するものである。主要評価項目は心血管予後であり、目標症例は2,000名、追跡期間は5年間である。2) 研究組織を確立した。分担研究者に研究協力者を加えた研究組織を確立し、ステアリング、モニタリング、解析評価の各委員会を発足させ、登録管理者を定めた。また、データ通信にインターネットを用いるための整備を進めた。さらに、全国の国立病院、国立療養所に参加を呼びかけ、多くの賛同を得た。3)パイロット研究を継続し中間解析を行った。本研究のパイロット研究は平成12年より開始されており、10施設より約170名の症例登録がなされた。本年度は、これを継続するとともに中間解析を行った。各群とも降圧薬の併用を要した者が多かったが、目標血圧は達成できていた。腎障害の指標である尿アルブミン排泄量は、目標血圧130mmHg未満群では減少したが140mmHg未満群では不変であり、厳格な降圧が臓器保護効果は大きいことが示唆された。

分担研究者名

友池仁暢 国立循環器病センター病院長
佐瀬一洋 国立循環器病センター
治験管理室医長
万波俊文 国立循環器病センター
集団検診部医員
小嶋俊一 国立東静岡病院副院長
恵谷秀紀 国立大阪病院診療部長
斎藤大治 国立岩国病院副院長
上野道雄 国立病院九州医療センター
内科医長

試験を施行し、わが国における降圧治療指針の資料となる成績を得ることを目的とする。

高血圧は種々の循環器病の重要な危険因子であるが、高血圧に関連した循環器病の実態は日本と欧米では異なっている。高血圧の大規模臨床研究はわが国でも試みられたが、十分な成績は得られていない。これらの背景より、わが国においても大規模臨床試験による標準的降圧療法のガイドラインの資料となる成績が強く求められる。また、そのような臨床試験の施行が可能となるような組織作りが必要と考えられる。適切な降圧レベルと降圧薬の決定は、医療経済上からも重要な問題と考えられる。本研究は、家庭血圧の朝の収縮期血圧に基づいた降圧治療の無作為介入試験であり、高血圧の至適治療を異なった目標血圧と降圧薬

A. 研究目的

本研究は、高血圧の大規模臨床研究に関し、国立循環器病センターと国立病院・国立療養所による臨床研究を推進する組織作りを行い、朝の家庭収縮期血圧に基づいた降圧薬の無作為割り付けによる前向き臨床

により検討するものである。また、国立循環器病センターおよび全国の国立病院と国立療養所からなる組織作りを行い、その共同研究として高血圧の大規模臨床試験を実施するものである。本研究により、わが国における循環器疾患の発症を予防するための標準的降圧療法の確立についての重要な資料が得られることが期待される。また、降圧治療における家庭血圧の意義や降圧薬の差についての新しい知見が得られると考えられる。

B. 研究方法

本研究は、主任研究者と分担研究者および多数の研究協力者による多施設共同研究である。HOSP研究 (Hypertension Control Based On Home Systolic Pressure Study) と略称する。本研究のデザインはPROBE (Prospective Randomized Open Blinded Endpoint) である。これはオープンであるが無作為の前向き介入試験で、日常診療に近い形での臨床試験が可能であり、独立した解析者により客観的な評価ができる。主任研究者の河野は、研究全体の総括と臨床試験の推進にあたる。分担研究者の友池、小嶋、恵谷、斎藤、上野は、ステアリング委員として臨床試験を推進する。佐瀬は登録症例の割付とモニタリングを担当する。万波は解析、評価を担当する。研究参加施設は、国立循環器病センターを中心として、高血圧の診療を行っている全国の国立病院および国立療養所約100施設を予定している。

本研究は、朝の家庭収縮期血圧に基づいて、2種類の降圧薬 (Ca拮抗薬あるいはAII拮抗薬) と、2段階の降圧レベル (厳格あるいは緩和なコントロール) による、降圧治療の効果を検討する無作為介入試験である。対象は未治療あるいは治療中の40才以上80才未満の高血圧患者で、重篤な合併症を伴わない者である。4週間の観察期の後、降圧目標と降圧薬を無作為に割り付けて治療を行う。降圧目標は、1. 朝の家庭収縮期血圧140mmHg未満 (130mmHg以上)、2. 同130mmHg未満である。降圧薬は、A. アムロジピン2.5-5mg、1×朝、B. ロサルタン

25-50mg、1×朝とし、はじめの3か月間は単剤により治療を行う。降圧が不十分な場合には、A群はAII拮抗薬、ACE阻害薬以外、B群はCa拮抗薬以外の降圧薬を追加する。主要エンドポイントは心血管事故および死亡であり、その他に臓器障害や血圧コントロールと併用薬、副作用などについて評価する。目標症例数は2000例であり、Follow-upは5年間を予定している。登録症例の割付は、国立循環器病センターにおいてコンピューターにより行う。以後の経過報告や問い合わせも循ネット、HOSPネットのネットワークを利用して行う。また、サブスタディとして24時間血圧測定や尿アルブミン排泄量測定、心や頸動脈エコー検査、脈波速度測定などを行い、より精密な血圧や臓器障害、動脈硬化の評価を行う。1年度は共同研究の組織作りを行い、症例登録を開始する。2年度は症例登録を完了し、試験開始前のデータを解析する。3年度は1年後の評価を行い、さらに長期のFollow-upの体制を確立する。

(倫理面への配慮)

本研究は、各施設の倫理委員会の承認下で、インフォームド・コンセントを得た上で実施され、個人情報 は 守 秘 さ れ る。用 いる薬剤は既に広く用いられており、すべての症例は降圧薬による治療を受けることから、倫理的問題は小さいと考えられる。本研究の施行に関しては、国立循環器病センター倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

本年度の研究成果は、以下の3点である。

①研究計画を確立した。本研究は朝の家庭収縮期血圧に基づいた高血圧治療の多施設共同無作為介入試験 (HOSP 研究) で、2段階の降圧レベル (130mmHg 未満と140mmHg 未満) と、2種類の降圧薬 (Ca拮抗薬とAII拮抗薬) の効果を検討するものである。主要評価項目は心血管予後であり、目標症例は2,000名、追跡期間は5年間である。本年度は研究計画を確定し、実施計画書、同意書、調査票を作成した。また、本研究を国立循環器病センター倫理委員会に申請し、承認を得た。

②研究組織を確立した。本研究は国立循環器病センターと国立病院、国立療養所による共同研究である。分担研究者の他に生物統計学者を含む研究協力者を加えた研究組織を確立し、ステアリング、モニタリング、解析評価の各委員会を発足させ、登録管理者を定めた。また、データ通信にインターネット（HOSP ネット）を用いるための整備を進めた。さらに、全国の国立病院、国立療養所に本研究への参加を呼びかけ、過半数の賛同を得た。

③パイロット研究を継続し中間解析を行った。本研究のパイロット研究は平成12年より開始されており、10施設より約170名の症例登録がなされている。本年度は、これを継続するとともに中間解析を行った。各群とも目標血圧を達成できていたが、過半数の例で降圧薬の併用を要した。心血管イベントの発症は4例で、死亡例はなかった。腎障害の指標である尿アルブミン排泄量は、目標血圧130mmHg未満群では減少し、140mmHg未満群では不変であった。Ca拮抗薬とAⅡ拮抗薬との間には差はなかった。

D. 考察

収縮期血圧は拡張期血圧より、家庭血圧は外来血圧より臓器障害や予後に強く関連することが知られている。これまでの臨床試験は主に拡張期血圧に基づいて行われており、家庭血圧計の普及はめざましいがこれによる高血圧治療のエビデンスは乏しい。朝の血圧上昇は心血管事故に関与すると考えられているが、朝の血圧のコントロールを目標とする高血圧治療試験はなされていない。降圧薬に関しては、Ca拮抗薬がわが国では最も多く用いられており、AⅡ拮抗薬の使用は急速に増加している。いずれの薬剤が第一選択薬として優れているかは明らかではない。

本研究は、朝の家庭収縮期血圧に基づいた無作為介入試験であり、高血圧の至適治療を異なった目標血圧と降圧薬により検討するものである。本研究の成果及び今後の発展性として、高血圧の大規模臨床試験の施行体制が整備され共同研究が推進される

ことにより、わが国における降圧治療の指針の資料となる成果が得られることが期待される。また、高血圧治療における家庭血圧の意義や、至適血圧値、およびCa拮抗薬とAⅡ拮抗薬の臨床的有用性が明らかになることが期待される。パイロット研究の中間解析では、厳格な降圧が臓器保護効果は大きいことが示唆された。本研究の結果は、個々の高血圧患者へのよりよい治療への指針の資料となるとともに、国民や社会全体における循環器疾患の予防に貢献し得ると考えられる。

E. 結論

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床研究に関して、国立循環器病センターと全国の国立病院・国立療養所による臨床研究を推進する組織作りを行い、朝の家庭収縮期血圧に基づいた降圧薬の無作為割り付けによる前向き臨床試験

（HOSP研究）を開始した。本年度は、研究計画を確立し、研究組織を確立し、パイロット研究を継続してその中間解析を行った。本研究によりわが国における降圧治療の指針の資料となる成果が得られ、高血圧治療における家庭血圧の意義や、至適血圧値、およびCa拮抗薬とAⅡ拮抗薬の臨床的有用性が明らかになることが期待される。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 堀尾武史, 河野雄平: 家庭血圧をどう利用するか. Heart view 6: 184-190, 2002.

2) Kawano Y, Pontes CS, Abe H, Takishita S, Omae T: Effects of alcohol consumption and restriction on home blood pressure in hypertensive patients: serial changes in morning and evening records. Clin Exp Hypertens 24: 33-39, 2002.

3) Hata Y, Muratani H, Kimura Y, Fukiyama K, Kawano Y, Ashida T, Yokouchi M, Imai Y, Ozawa T, Fujii J,

Omae T: Office blood pressure variability as a predictor of acute myocardial infarction in elderly patients receiving antihypertensive therapy. *J Hum Hypertens* 16: 141-146, 2002.

4) Tsunoda S, Kawano Y, Horio T, Okuda N, Takishita S: Relationship between home blood pressure and longitudinal changes in target organ damage in treated hypertensive patients. *Hypertens Res* 25:167-173, 2002.

5) Kawano Y : Role of blood pressure monitoring in non-pharmacological management of hypertension. *Blood Pres Monit* 7: 51-54, 2002.

6) 河野雄平, 中村敏子, 堀尾武史, 神出計, 滝内伸, 中濱肇, 佐々木修, 稲永隆: 本態性高血圧患者における家庭血圧コントロールと尿アルブミン排泄量: HOSP Sub-study. *Ther Res* 23: 790-793, 2002.

7) 河野雄平: 家庭血圧測定を診療にどう生かすか. *Medical Practice* 19: 1518-1519, 2002.

8) 河野雄平: 高血圧の大規模臨床試験施行のための総合的研究. 平成 13 年度厚生省循環器病研究委託費による研究報告集. 国立循環器病センター, 吹田, p130-131, 2002.

9) 河野雄平: 高血圧の臨床試験における家庭血圧と 24 時間血圧に関する研究. 平成 13 年度厚生省循環器病研究委託費による研究報告集. 国立循環器病センター, 吹田, p132, 2002.

学会発表

1) Kawano Y, et al: Hypertension control based on home systolic pressure (HOSP): study design and interim report. 19th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Prague, Czech, 2002.

2) Kawano Y, et al: Effects of strict and modest control of home blood pressure on urinary albumin excretion in patients with essential hypertension: HOSP sub-study. 19th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension,

Prague, Czech, 2002.

3) 万波俊文、斎藤大治、小嶋俊一、恵谷秀紀、桑島巖、今井潤、村谷博美、上野道雄、青崎登、品川達夫、河野雄平: 家庭収縮期血圧に基づいた高血圧治療の共同研究 (HOSP study): 観察期と 1 年後の中間結果. 第 25 回日本高血圧学会総会、東京、2002.

H. 知的財産権の出願・登録状況
特になし

HOSP 研究：実施計画書

Hypertension Control Based On Home Systolic
Pressure Study

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大
規模臨床試験

1. 研究協力の任意性および撤回の自由

本研究への協力は患者の自由意志によって決められ、同意しなくても患者の不利になることはない。また、一旦同意した後でもいつでも同意を取り消すことが可能であることを保証する。本件については、患者説明文書に記載し、説明を行う。

2. 研究の背景, 目的および意義

【背景】

高血圧は種々の循環器病の重要な危険因子であるが、高血圧に関連した循環器病の実態は日本と欧米では異なっている。欧米では多くの高血圧の大規模臨床研究が実施され、エビデンスに基づいた高血圧の治療指針が作られている。高血圧の大規模臨床研究はわが国でも試みられた¹、十分な成績は得られていない。

高血圧治療の効果は明らかであるが、十分にコントロールされていない患者は極めて多い。降圧治療における目標血圧値は、欧米のガイドラインでは老年者においても 140/90mmHg 未満であり、わが国では老年者にはより高い血圧値を容認している。収縮期血圧は拡張期血圧より予後/強く関係するが、これまでの治療研究は主に拡張期血圧に基づいている。家庭血圧は高血圧の診断と治療に大きな意義を有するが、外来血圧より一般に低く、その降圧目標値は明らかではない。また、朝には血圧が急に上昇し、心血管事故も朝に最も多いことが知られている。高血圧治療における各種の降圧薬間の優劣についても、まだ明らかではない。

【目的】

高血圧の大規模臨床試験が可能となるよう国立循環器病センターと全国の国立病院、国立療養所を中心とした体制作りを行い、家庭血圧に基づいた高血圧治療の大規模無作為介入試験を実施することを目的とする。家庭での朝の収縮期血圧に基づいた 2 つのレベルの降圧目標を設定し、最も多く用いられているカルシウム (Ca) 拮抗薬と、使用が増加しているアンジオテンシンⅡ受容体 (AⅡ) 拮抗薬を初期選択薬として検討する。心血管事故や死亡、副作用、臓器障害などに関して評価する。

本研究は、厚生労働科学研究費による「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」として行われるものである。また本研究のパイロットスタディは、平成 12 年に国立循環器病センターの倫理委員会で承認され、現在 10 施設において進行中である。

【意義】

本研究により、高血圧の大規模臨床試験の施行体制が整備され、共同研究により降圧治療の指針の資料となる成果が得られると考えられる。また、高血圧治療における家庭血圧の意義や、至適血圧値、および Ca 拮抗薬と A II 拮抗薬の臨床的有用性がより明らかになることが期待される。

3. 研究組織

主任研究者

河野 雄平 国立循環器病センター高血圧腎臓内科 部長

登録管理者

佐瀬 一洋 国立循環器病センター治験管理室 医長

ステアリング委員会

(主) 河野 雄平 国立循環器病センター高血圧腎臓内科 部長
友池 仁暢 国立循環器病センター 病院長
小嶋 俊一 国立東静岡病院 副院長
恵谷 秀紀 国立大阪病院 診療部長
斎藤 大治 国立岩国病院 副院長
上野 道雄 国立病院九州医療センター内科 医長
品川 達夫 国立療養所川棚病院 副院長
今井 潤 東北大学大学院臨床薬学 教授
堀尾 武史 国立循環器病センター高血圧腎臓内科 医師

モニタリング委員会

(主) 佐瀬 一洋 国立循環器病センター治験管理室 医長
瀧下 修一 琉球大学医学部第3内科 教授
中村 敏子 国立循環器病センター高血圧腎臓内科 医師

解析評価委員会

(主) 万波 俊文 国立循環器病センター集団検診部 医師
佐藤 俊哉 京都大学医学研究科医療統計学分野 教授

桑島 巖

東京都老人医療センター循環器科 部長

研究協力者：国立循環器病センター内科高血圧腎臓部門医師

全国国立病院，国立療養所医師，その他協力医師

事務局：国立循環器病センター内 HOSP 研究事務局

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台 5-7-1

TEL: 直通 06-6833-5004 + 内線 2670, または 06-6833-5012 (内線
2670)

FAX: 06-6872-8162

4. 研究方法

【デザイン】

Prospective, randomized, open, blinded endpoint (PROBE) デザインによる無作為オープン多施設共同研究

【対象】

未治療または治療中の高血圧患者で，40 才以上 80 才未満の者。重篤な合併症を有する者や出産の可能性のある女性，その他担当医が不適當と判断した例は除く。

【プロトコール】

介入前の観察期における評価の後，降圧薬と降圧目標を無作為に割り付ける。治療中の患者では，休薬は必要ではない。

割り付けは国立循環器病センター内 HOSP 研究事務局にて行う。コンピューター（インターネット），電話または Fax にて行なう。降圧目標で 2 群，降圧薬で 2 群，計 4 群となる。

降圧薬： I. Ca 拮抗薬群 アムロジピン 2.5mg → 5mg, 1×朝
II. AII 拮抗薬群 ロサルタン 25mg → 50mg, 1×朝

降圧目標：1. 朝の家庭収縮期血圧 140 mmHg 未満 (130 mmHg 以上)
2. 朝の家庭収縮期血圧 130 mmHg 未満

はじめの3か月間は、できるだけ割り付けられた降圧薬による単剤治療とする（降圧薬以外の薬剤は自由）。

降圧が不十分な場合は、Ⅰ群はAⅡ拮抗薬およびACE阻害薬以外、Ⅱ群はCa拮抗薬以外の降圧薬を追加する（各担当医の裁量による）。

多剤併用療法によっても目標血圧値に達しない場合には、Ⅰ群はアムロジピンを10mgに、Ⅱ群はロサルタンを100mgに増量する。

【評価項目】

家庭血圧（朝服薬前に複数回測定，受診前3日間の平均値により評価，できるだけ夜も測定する），外来血圧（坐位にて2回測定）

心電図，検尿，血液生化学，

自覚症状，副作用，併用薬剤，脱落，合併症，心血管事故，死亡，

治療開始前，3か月後，1年後，以後1年毎に5年間評価する。

5. 目標症例数および調査期間，実施場所

目標症例：2,000例，各施設10例以上

症例登録：平成15年4月1日－平成16年12月31日

調査期間：平成15年4月1日より7年間

実施場所：国立循環器病センターおよび全国の国立病院，国立療養所，協力施設

6. 説明と同意

担当医が本人に口頭および文書により説明し，本人より文書による同意を得る。同意文書は，診療録あるいは調査票とともに保管する。Informed consentの内容には下記を含むものとする。

研究への協力の任意性と撤回の自由

研究目的および内容

研究計画書の開示

予測される危険性およびその対応

被験者にもたらされる利益および不利益

費用負担に関すること

知的所有権に関すること
倫理的配慮

7. 中止と脱落

中止，脱落例については，必要事項を記入し，事務局に報告する。心血管事故や死亡により中止となった例は，直ちに報告する。

8. 解析とモニタリング

データは事務局において管理し，モニタリングはモニタリング委員会，解析と評価は解析・評価委員会にて行う。

研究実施計画の変更の必要性が生じた場合には，ステアリング委員会において協議し，研究代表者はその内容と理由を共同研究者に速やかに連絡する。

9. 問題発生時の対応

降圧治療中に発生した有害事象に対しては，適宜医学的に対処する。重篤な副作用や合併症が認められた場合には，中止・脱落とする。本件についても説明文書に明記する。

10. 研究計画書等の開示

研究参加者および家族からの希望があれば，研究計画書の開示を行う。

11. 予測される危険性

第12項参照。

12. 被験者の利益および不利益

利益として，専門医のもとで外来血圧より優れた血圧評価法として認められている家庭血圧に基づいた治療をうけることができる。また，定期的な受診と検査によ

り、副作用や合併症の早期発見と対応ができる。

不利益としては、全員が降圧治療をうけるが、目標血圧別あるいは降圧薬別の群間に著しい差があれば、ある群の個人に不利となる可能性がある。しかし、これは現時点では予測が困難である。使用される薬剤は高血圧治療に広く用いられており副作用が少ないことが知られている¹、副作用が起こる可能性はありうる。

13. 費用負担に関する事項

薬剤や検査、受診の費用については、通常の保険診療の範囲であり、各個人に負担して頂く。家庭血圧計は、研究参加への謝礼を含めて研究参加者に贈呈する。データ集計や解析等に要する費用は、厚生労働科学研究費「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」による。

14. 知的所有権に関する事項

本研究により生じる知的所有権に関しては、すべて本研究組織に属するものとする。

家庭血圧に基づいた高血圧の治療についての研究

【研究協力の任意性と撤回の自由】

この研究への参加の同意は、あなたの自由意志で決めて下さい。同意しなくてもあなたの不利益になるようなことはありません。また、一旦同意した後でも、あなたが不利益をうけることなくいつでも同意を取り消すことができます。

この研究で得られたデータは、あなたの診療で利用される他は研究目的にのみ使用され、個人情報公表されることは決してありません。

【研究の目的】

高血圧の治療は循環器病の予防のために重要です。家で測定された血圧は病院での血圧より信頼できると考えられていますが、家庭血圧は一般に病院の血圧より低く、どのくらいが最善かはよく分かっていません。また、血圧を下げる薬には多くの種類がありますが、どの薬が最善かもよく分かっていません。そこで、家庭血圧の値に基づいて、また広く用いられている2つの降圧薬を使って高血圧の治療を行い、その有用性を明らかにしたいと思います。

【研究の方法】

高血圧の患者さんを対象にします。すでに血圧を下げる薬を飲んでおられる方は、検査の後で以下の薬に変更します。その他の薬はそのまま続けます。

血液や尿、心電図の検査の後、降圧薬としてアムロジピンまたはロサルタンという薬を用い、また朝の家庭血圧が140未満（130以上）または130未満になるように、あらかじめ決められたとおりに治療を行います。血圧の下がり不十分な場合には、他の薬を追加します。副作用が強いときや合併症がおこった場合には、薬を変更するなどして対処します。

治療前、3か月後、1年後、以後1年毎に、家庭血圧や外来血圧の値、使用薬剤、副作用、合併症、心電図、尿、血液、などについて調べます。治療研究の期間は5年間の予定です。

なお、この治療研究は厚生労働省の研究班が共同して行うものであり、当センターの倫理委員会の承認を受けています。

【用いられる薬について】

アムロジピン（製品名ノルバスク、アムロジン）はカルシウム拮抗薬で、血管を拡げて血圧を下げます。ロサルタン（製品名ニューロタン）はアンジオテンシン拮抗薬で、血圧に関係するホルモンの作用を抑えます。いずれも効果が比較的確実で副作用が少ないことから、高血圧の治療に広く用いられています。ご質問がありましたら、担当医にお尋ね下さい。

【研究計画書等の開示】

希望があれば、この研究の計画書の内容をみることができます。

【研究に参加される方の利益および不利益】

利益としては、専門医のもとで外来血圧より優れた血圧評価法として認められている家庭血圧に基づいた治療を受けることができます。また、定期的な受診と検査により、副作用や合併症の早期発見と対応ができます。

不利益としては、全員が降圧治療を受けるが、目標血圧別あるいは降圧薬別の群間に著しい差があれば、ある群の個人に不利となる可能性があります。しかし、これは現時点では予測が困難です。また、使用される薬剤は高血圧の治療に広く用いられており副作用が少ないことが知られていますが、それでも副作用が起こる可能性はあります。副作用や合併症が生じた場合には、薬の変更などにより適切に対処いたします。

【費用負担に関する事項】

この研究での薬や検査は通常の高血圧の診療において行われているものであり、特別な費用は生じませんが保険診療内の自己負担となります。家庭用血圧計は、研究参加へのお礼の意味も含めて差し上げます。データ集計や解析等に要する費用は、厚生労働科学研究費「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」により補助されま

【知的所有権に関して】

この研究により生じる知的所有権に関しては、すべてこの共同研究の研究組織に属します。

【倫理的配慮に関して】

この研究の内容、あなたにもたらされる利益や不利益、またその対応などについては、この文書を用いたインフォームド・コンセントにより行われます。

平成 年 月 日

説明医師：

国立循環器病センター
大阪府吹田市藤白台5-7-1，電話 06-6833-5012

「家庭血圧に基づいた高血圧の治療についての研究」への協力に関する同意書

国立循環器病センター 病院長殿

私は「家庭血圧に基づいた高血圧の治療についての研究」（主任研究者 河野雄平）に関して、その目的、内容、利益および不利益を含む下記の事項について担当者から説明文書を用いて説明を受け、理解しました。

また、同意した後であっても、いつでも同意を撤回できること、そのことによって何ら不利益を生じないこと、疑問があればいつでも質問できることについても説明を受け納得しました。

については、私自身の自由意志により研究への協力を同意します。

- ・ 研究への協力の任意性と撤回の自由
- ・ 研究目的および内容
- ・ 研究計画書の開示
- ・ 予測される危険性およびその対応
- ・ 研究協力者にもたらされる利益および不利益
- ・ 費用負担に関すること
- ・ 知的所有権に関すること
- ・ 倫理的配慮

平成 年 月 日

氏名 _____

(自署または記名・捺印)

住所 _____

電話番号 () _____

HOSP研究：調査票

Hypertension Control Based On Home Systolic
Pressure Study

家庭血圧に基づいた高血圧の至適治療に関する大規模臨床試験

HOSP研究：観察期調査票(1)

送付先：HOSP研究事務局，FAX：06-6872-8162

登録番号：

施設名：

担当医名：

調査日： 年 月 日

高血圧治療歴： なし あり

観察期の降圧薬： なし あり

Ca拮抗薬 A II拮抗薬 ACE阻害薬 $\beta(\alpha\beta)$ 遮断薬
 α 遮断薬 利尿薬 他 ()

合併症： 高脂血症 なし あり

糖尿病 なし あり

高尿酸血症 なし あり

心血管疾患 なし あり ()

その他 ()

生活習慣： 飲酒 なし あり 以前にあり

喫煙 なし あり 以前にあり

使用薬剤：抗高脂血症薬 なし あり

抗糖尿病薬 なし あり

抗高尿酸血症薬 なし あり

抗血小板，抗凝固薬 なし あり

他の循環器系作用薬 なし あり